

## 平成13年度 施策別取組方向

部局名：生活部、総合企画局、地域振興部、教育委員会

施策番号	施 策 名		
511	国際交流・協力の推進		
<b>【2010年度の目標】</b> 国際交流や協力、地域での国際化を通して、住民と外国人がお互いに、異なった歴史、文化、価値観などを学び、相手方を理解し尊重するなかで、地球時代にふさわしい国際社会の一員としての行動規範が形成され、世界の平和にも貢献しています。			
項 目	基準年度の状況	1999年度実績	2001年度の目標 (2010年度の目標)
県による留学生、海外技術研修員、研修生の受け入れ人数の拡大	18人	12人	23人 (40人)
国際交流ボランティアの人数 (三重県国際交流財団登録数)	378人	489人	500人 (800人)
市町村国際化協会の設立	15	22	30 (全市町村)
学校等の姉妹・友好提携の拡大	46	64	60 (100)

### 1 平成11年度取組

#### (1) 平成11年度取組概要とその成果

- 1) 桑名市と鈴鹿市に旅券窓口を開設し、県民の利便性の向上を図った。
- 2) 在住外国人生活実態調査及び在住外国人に対する県民意識調査を実施し、今後の施策に必要な資料の収集を図った。
- 3) 海外技術研修員や海外自治体職員協力交流研修員等を受け入れ、国際協力を行った。
- 4) 中国河南省との政府代表団の相互派遣、高校生のパラオ共和国への派遣など姉妹・友好交流の発展に努めた。
- 5) 国際交流員(CIR)や外国語指導助手(ALT)を招致し、交流・教育等を通じて地域の国際化・外国語教育の充実を図った。
- 6) 海外に職員を派遣することにより、国際化に対応できる人材の育成を図った。

#### (2) 平成11年度取組に対する問題点

- 1) 留学生、研修員等の一部に日本語能力が不十分なため、目的達成が困難な例がある。
- 2) 研修員等の研修効果の評価が不十分である。
- 3) 国際化に対応できるよう、ALTから生徒が直接学ぶ機会を増やす必要がある。

### 2 平成12年度取組と成果見込み

- 1) 県民がスムーズに旅券を取得できるよう職員の接遇能力を向上させるため、事例集など対応マニュアルを作成する。
- 2) 在住外国人に関する調査結果を生かし、地域ごとに意見交換会を開催し、共生社会実現に向け施策を検討する。
- 3) 研修員等の来日後の日本語研修を強化し、研修の円滑な実施に努める。
- 4) 研修等の効果とニーズを把握するためにフォローアップ調査を実施し、今後の研修の改善に役立てる。
- 5) 姉妹校提携を進めると共に姉妹・友好提携先とのネットワークを強化することにより、情報の集積を図る。
- 6) ALT・CIRを活用し、外国語・国際教育・国際化を推進する。

### 3 平成13年度以降に向けての取組方向

国際交流や協力、地域での国際化を通して、住民と外国人がお互いに理解し尊重するなかで、国際社会の一員としての行動規範が形成され、世界平和にも貢献している地域、県土としていくためには、住民が主体的にそのような地域づくりを実践していくことが重要である。行政の担うべき役割は、住民の主体的な地域づくりが円滑且つ効果的に実現できるよう、情報提供等の支援をしていくことであり、住民に最も身近である市町村の果たすべき役割は大きい。県も自らが有する資源の活用や規模のメリットを活かし、市町村と連携、補完しながら支援をしていくことが必要である。

以上の視点に立ち、下記に重点をおいて取り組む。

- 1) 津駅前ビルへの県庁旅券コーナーの移転に伴い、日曜日開設など県民サービスの向上、組織体制の検討を行う。
- 2) 三重県に蓄積されている資源を活用した国際協力を展開するため、技術研修生等の受け入れの拡大を図る。
- 3) 住民の主体的な活動の基盤となる組織づくりを支援する。(2001年度末市町村国際化協会設立数30団体)
- 4) 国際化に対応した人材を育てるため、異文化理解や国際理解の教育の充実を図るとともに、外国語によるコミュニケーション能力の育成や国際交流の機会を創出する。